

はさ ま 廻 間 遺 跡

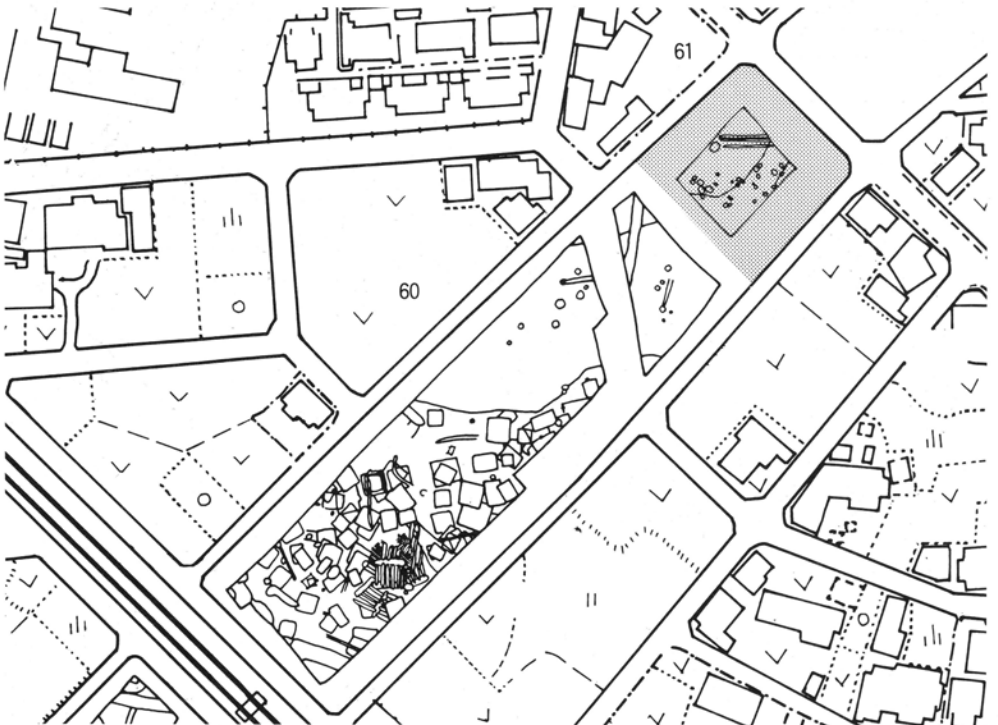
本年度の調査は、前年度の北東にあたる部分で、古墳時代初頭～中世までの旧河道と、それが埋積後に構築された中世井戸1基と、清洲城下町の時代の井戸15基とそれに伴う土坑15基及び溝3条を検出した。

その中で清洲城下町の時代で長さ70～80cmの葦を円筒状に束ね、竹の箍で内側と外側から締めて止め、桶の代用品としていた井戸が3基あり、近世井戸の内部構造物としては当地では初めての事例である。その他の井戸については、中世のものを除いて全て桶を内部構造物としていたと思われ、廃絶の際に桶を抜き取り、箍だけ残ったものがほとんどであった。なお、遺物は、大甕、下駄、青白磁碗、長石釉皿、灰釉皿、丸瓦等々が出土している。

(長島 広)



調査区全景（北より）



調査区位置図及び遺構配置図1/2000